

2 本市の概要

2. 1 自然的特性

【地勢】

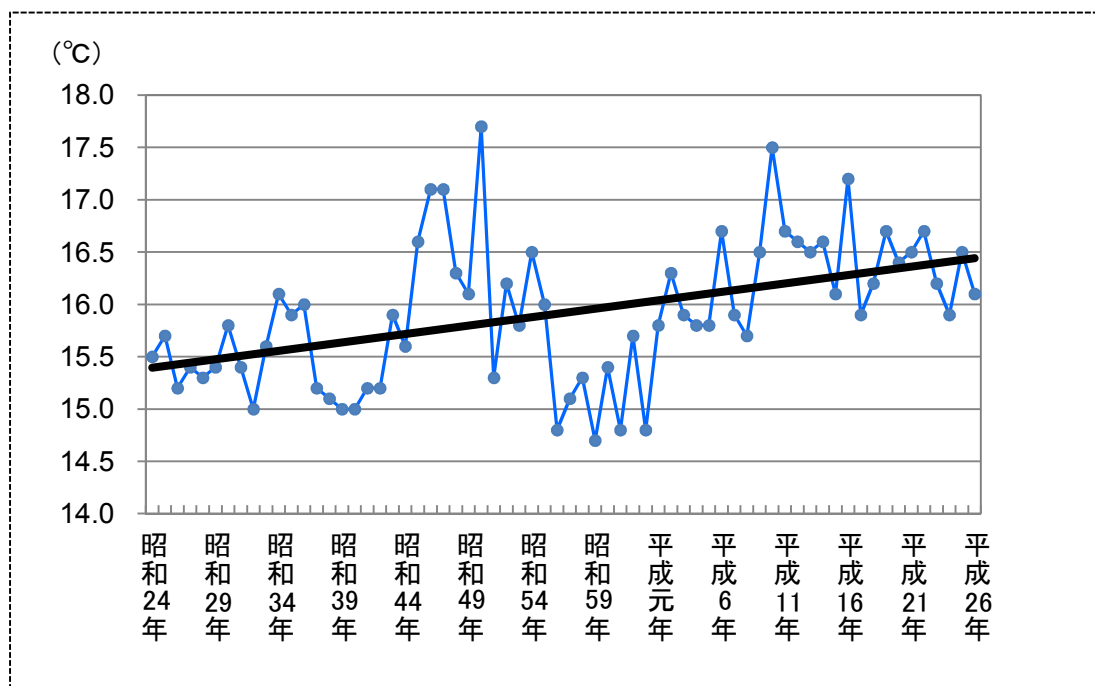
本市は、愛知県の東南部に位置し、東は弓張山地、南は遠州灘、西は三河湾に面し、延長は東西が 17.8 km で南北が 23.9 km、面積は 261.86 km²（平成 27 年 4 月 1 日現在）です。

【気候】

本市の南には黒潮が流れ、東部から北部にかけては山地に囲まれているため、比較的温暖な気候に恵まれています。平成 26 年の年平均気温は 16.1 °C、年間降水量は 1,506.5 mm、年平均風速は 3.1 m/s です。

平均気温は、昭和 24 年から平成 26 年までの約 60 年間で約 1 °C 上昇しており、真夏日は年々増加し、逆に冬日は減少しています。

図1 年平均気温の推移



【市域の特徴】

本市には、石巻山を含む弓張山地があり、三河山間部を源流とする豊川が流れ、遠浅な三河湾、黒潮が流れる表浜（太平洋）に接するなど、様々なタイプの自然に恵まれ、それぞれが特徴的な景観や動植物相を形成しています。

森林は、東部丘陵地域を中心に市内全体で約 4,200ha 存在しますが、約 7 割はスギ、ヒノキ等の人工林です。

2. 2 社会的特性

【人口】

本市の人口は、昭和 60 年に 322,142 人、平成 22 年に 376,665 人と堅調に増加してきました。今後は、出生率の低下により多くの増加は見込まれず、平成 32 年には約 372,000 人になると推計しています。

世帯数は、昭和 60 年が 93,847 世帯、平成 22 年が 141,424 世帯と、核家族化の進行により増加し、平成 32 年には約 155,000 世帯になると推計しています。

人口の年齢構成をみると、平成 22 年には、年少人口 14.9%、生産年齢人口 64.8%、老年人口 20.3%であるのに対し、平成 32 年には、年少人口 12.6%、生産年齢人口 61.4%、老年人口 26.0%となり、少子高齢化が進行するものと予測しています。

【産業】

本市の産業は、農業産出額が約 474 億円（平成 18 年）、製造品出荷額等が約 1 兆 1,267 億円（平成 25 年）、商品販売額が約 9,758 億円（平成 24 年）と農業、工業及び商業がそれぞれ盛んです。農業は規模の大きい農家も多く、全国でも有数の生産をあげています。工業及び商業については、中小企業の割合が高くなっています。

【交通】

本市の公共交通は、東三河の玄関口である豊橋駅に、新幹線をはじめ 3 社 6 路線の鉄道が乗り入れています。特に、豊橋駅から市東部を通る路面電車は、市民の足としてだけでなく、まちのシンボルとして「市電」の愛称で親しまれています。

市内の道路網は、都市部を中心に放射環状型に広がる一方、中心部を国道 1 号や国道 23 号、国道 259 号などの幹線道路が通過し、市外へとつながっています。

市民の交通手段は、中京都市圏全体と比べ、自動車の利用割合が高く、鉄道・バスなどの公共交通の利用割合が低い状況です。

【土地利用など】

平成 25 年度における土地の利用状況は、畑の構成比（23.7%）が最も高く、山林（18.1%）と田（9.7%）をあわせて全体の約 52%を占めています。平成 16 年度と比較すると、工業用地や公的・公益用地が増加する一方で、田やその他の自然地などが減少しています。また、市街化区域が中心部に、市街化調整区域が周辺部にドーナツ状に広がっています。